

(上) 修理前の旧大社駅舎（本屋）の正面立面図【図版提供：出雲市文化財課】

(下) 駅舎屋根の葺き替え工事【写真提供：出雲市文化財課】



①修理前の駅舎屋根



②瓦をとり除いた  
板葺き屋根



③板葺きをとり除いた  
垂木の屋根

駅舎の外観は和風ですが、内部は大空間となっており、中央には待合室と改札口が、また両端には小荷物扱室、事務室、貴賓室（応接室）などが配置されています。したがって、このような大空間を確保するために、

駅舎は木造平屋建ての瓦葺きで、中央の屋根を中心に美しい左右対称形となっています。宇治平等院鳳凰堂（京都市）を彷彿とさせる作りです。また、中央の屋根に千鳥破風、棟の両側には鴟尾（宮殿や城などの大屋根の両端にとり付けられた魚の尾の形をした飾り）を備え、出雲大社の表玄関にふさわしい威厳を醸し出しています。

現在、出雲市大社町北荒木にある旧大社駅舎（本屋）の解体修理工事が進行中です。この駅舎は、大正十三（一九二四）年に建立された二代目の駅舎です。初代駅舎は、明治四十五（一九一二）年に大社線の開通にともなって現在地に建てられましたが、乗降客の増加により、手狭となり建て直されたものです。

駅舎の解体修理期間は、令和七年（二〇二五）年十二月までが予定されています。翌年正月には、修復された大社駅舎が見られそうです。

大社駅は、「優れた意匠の木造和風駅舎として我が国を代表する建築物であり、鉄道興隆期の地方駅舎の姿をよく留めている」と評価され、平成十六（二〇〇四）年に国の重要文化財に指定されました。駅舎建築では、門司港駅、東京駅に次いで、三例目ということになります。

二代目駅舎の工事は、当時鉄道省神戸鉄道局米子保線事務所によって行われました。駅舎本屋の設計は近年まで、鉄道省建築課の曾田甚蔵の名が取り沙汰されていました。駅舎裏の柱に打ち付けてあった棟札が発見され、設計者は神戸鉄道局の若き技術者であった丹羽三雄であることがわかりました。

構造は屋根を柱と梁とで支える従来の日本式ではなく、比較的細い柱を斜めに使う西洋風のトラス構造が採用されています。

副理事長 江口博晴



重要文化財旧大社駅舎は  
只今解体修理中！

# 財団いづも

第22号

発行所  
公益財団法人いづも財団  
〒699-0701  
島根県出雲市大社町杵築東283  
大社國學館内  
TEL 0853-31-4346  
FAX 0853-31-4348  
info@izumozaidan.or.jp

編集発行人  
山崎裕二  
いづも財団公式HP



公開講座で  
**「古代出雲の歴史と文化」を学びました!**

「出雲の歴史文化を学ぶ!」シリーズの第二弾として、今年度は「古代出雲の歴史と地域文化」をテーマに取り上げ、公開講座を開催しています。第二回講座まで終了しましたので、その概要をお知らせします。

**第一回講座(令和四年五月二十一日(土)) 受講者数七一名**

会場 大社文化プレイスうらら館

**主題 出雲国の誕生と出雲国府**

演題 A 出雲国の誕生と「出雲国庁」発見物語

講師 松本 岩雄 先生 (島根考古学会会長)



「出雲国の誕生と『出雲国庁』発見物語」という、難しいテーマでお願いしたにも拘わらず、わかりやすく話していただきました。先生は、「国庁跡」が、これまでどのような考えられていたかについて、出雲郷説、竹矢説、六所神社説など八つの説を紹介していただきました。このような中で、市井しせいの研究者であった松江市の恩田清氏が大草村検地帳から「こくてふ」の文字を見つけ、それを手がかりに「国庁跡」の所在地を探り当てられた一連の発見物語は、一つのドラマをみているような気がしました。

考古学は発掘成果が強調されますが、発掘に至る過程にも魅力があります。先生のお話により、「新しい歴史の発見」に関心をもたれた受講者も多かったのではないかと思います。



演題 B 出雲国府周辺の景観と古代の行政組織

講師 高屋 茂男 先生 (八雲立つ風土記の丘所長)



出雲国府の行政組織並びに国府を中心とする当時の景観について、講演をしていただきました。模型図をもとにご説明いただき、当時の景観が大変よくわかりました。また、国府周辺から発掘された様々な出土品も紹介していただきました。土器の裏に書かれた文字や和同開珎わとうかいじんに関心をもたれた受講者も多かったように思います。さらに、「国府の機能の一部が移行して、中世には中海側に『府中』(出雲国の政治・経済・文化の拠点)が成立した」という話は、大変に魅力ある話題だったように思いました。

受講生にとって馴染みの薄い「出雲国府」を模型図や出土品等を駆使して、わかりやすく説明していただきました。

**第二回講座(令和四年七月二十三日(土)) 受講者数七八名**

**主題 「出雲国風土記」の世界**

演題 A 「出雲国風土記」の編纂と奈良時代の出雲

講師 川島 芙美子 先生 (風土記を訪ねる会会長)



わが国が誇る貴重な地誌である『出雲国風土記』について、その成立や時代背景などについて、これまで培ってこられた幅広い見識をもとに、その魅力について語っていただきました。

『出雲国風土記』は、奈良時代の出雲国の具体相が述べられており、この書に述べられている山野河海かみや島などは今日にも存在するものが多く、現代の地形認識があれば、奈良時代の地形も概ね推測できることを指摘されました。そのほか、奈良時代の出雲に生息していた鳥獣や魚貝、草木などについても触れられ、古代出雲を知るための基本資料であるということを変更して認識しました。

演題 B 「出雲国風土記」にみる神話や伝承

講師 錦田 剛志 先生 (万九千神社宮司)



古代人の信仰を、自然崇拜と建造物・施設をともなう祭祀に分け、具体的には『出雲国風土記』を事例に語っていただきます。古代人の自然崇拜の対象が、山や岩石ばかりでなく、岩屋・洞窟・湯・水・森などであったことを、具体事例を通して教えていただきました。

これまで、『出雲国風土記』に述べられている神話や伝承は、「古代人が創作した話」と単純に考えてきましたが、その背景には古代人の自然崇拜と密接な関わりがあることがわかりました。また、そこに類出する「社」と「御倉」、「宮」の違いについても説明いただきました。「社」と「宮」の違いなど、受講生は新たな発見をされたのではないかと思います。私たちが日頃あまり気にも留めなかったことに、新鮮な意味づけをしていただきました。

会費・寄付金は、このような活動にも活かされています！

### 邑南町における「ふるさとの森再生事業」

### を活用した地域活動

邑南町は、公益財団法人いづも財団が平成二十五年度から全市町村を対象にして開始した「ふるさとの森再生事業」を活用し、翌二十六年度から取り組んでいます。

#### 一 森林整備対象地の概況

邑南町では、施業地として天空の宿おおなん「いこいの村しまね」に隣接する森林を選定しました。そこは、標高五四〇mの山頂付近に位置する町有地で、面積は約一六haほどです。四季折々の風景を楽しめる景

観ですが、雪害などの気象災害や病虫害被害が発生し、荒廃した森林の再生が喫緊の課題となっています。

#### 二 これまでの取り組んできた経緯と成果

本来の植生に近づくような森林を育成するため、低質な広葉樹の除伐や枯損木を抜き刈りし、伐倒により空いた区域に植栽を行っています。生育に支障のない程度で下刈を実施して保育を行い、多様性のある豊かな自然林への再生に向けて長期的な展望をもち、地道に取り組んでいます。

同時に、幼児や児童生徒の森林への関心を高めることを目的として、「樹冠ネットワーク」や矢上・日和公民館と共催した事業を実施しています。近年では、小中学生による植樹活動、整備した森林と管理道を活用した森の探索ビンゴゲームなどの森林教室を実施しています。参加者から「散策しながら、知らなかった木や葉を勉強できた。」「秋にも参加して季節の変化を体感したい。」などの感想があり、大変好評をもらっています。

今後も、「ふるさとの森再生事業」を継続するとともに、こうした地域での活動を大切にし、邑南町で住む人々が森林に親しみをもち、森を大切にしながら生活してくれることを期待しています。



小学生との植樹活動  
(樹冠ネットワークと共催)



森の学校「ヒントをたよりに木を探せ!」  
(矢上・日和公民館と共催)

(文責 邑南町役場産業支援課 野田嘉彦)

## 令和4年度 いづも財団助成金交付先一覧

令和4年度の当財団の助成事業に関して公募したところ、島根県内の団体・個人から9件の申請がありました。8月22日(月)から専門家による申請書の精査を経て、9月15日(木)の理事会で次のとおり、8件の交付先が決定しました。

部門名	No.	事業名	申請団体名	助成決定額
1 「出雲」文化の探求事業	1	「松江藩 不傳流居相術」の出版事業	国際伝統武術連盟大和会 宗家 重吉 伸一(松江市)	20万円
2 「出雲」文化の保存継承事業	指定された有形民俗文化財・無形民俗文化財は、ともに申請がありませんでした。			
3 伝統文化を活かした地域の活性化事業及び寺社林の環境整備	1	大社中学校生徒による「吉兆さん」行事支援事業	「大社中学校生徒吉兆」支援保存会 会長 岩井 元康(出雲市)	17万円
	2	戸倉稻荷神社整備第Ⅱ期事業(拝殿の注連縄更新)	戸倉稻荷神社社会 代表 高橋 直裕(出雲市)	20万円
	3	出雲系系操り人形芝居の保存継承事業	出雲系操り人形保存会 会長 三吉 庸善(出雲市)	35万円
	4	出雲五色天神復活事業	島根県退職公務員連盟 斐川部 斐川部長 新宮 和男(出雲市)	15万円
	5	「出雲の山城ガイドブック」及び「出雲の山城調査報告書」の出版事業	出雲斐川尼子十旗顕彰会 代表世話人 宍道 年弘(出雲市)	20万円
	6	ガイドブック「島根半島四十二浦巡り結願寺一畑薬師への旅」製作事業	島根半島四十二浦巡り再発見研究会 会長 飯塚大幸(出雲市)	22万円
	7	安富神社鎮守の森保存事業	宗教法人 安富神社責任役員 総代長 田原 敏明 (益田市)	30万円

事業期間 令和4年10月1日～令和6年9月30日(最長2年間) 計179万円

### お知らせ

令和4年7月末日をもって事務局員松崎道子が退職しました。  
8月1日より亀山美雪が着任しました。



## 『ふるさとの森再生事業』のあゆみ③

本財団設立10周年の節目に際し、設立当初から特別事業として実施している「ふるさとの森再生事業」について、今までのあゆみを前号に続いて振り返ってみたいと思います。

### 平成26年度以降の概況

初年度の平成25年度には7市町村でスタートし、翌年度以降、12市町村、15市町村、18市町村と徐々に施業地を拡大。中には2地区目に取り組む市町村もあり、令和2年度には川本町が参加することで、県内全ての市町村で事業を実施することとなった。

ただ同じ鳥根県内でも施業地によって、作業前の状況は大きく異なる。本来、鳥根県内の森林では標高が高い一部を除き、シイ・カシ類などの常緑広葉樹が主体となる。ただし長年人の手加えられ、スギ・マツなどの針葉樹や落葉樹に置き換わっている現場、または逆に、急速に人の手が入らなくなったことによりクズ・ササ・タケなどが繁茂し、ヤブ状に荒れている現場も多く見受けられた。

それらの現況に応じ、まずヤブ状になった不要草木を除去し、現状を調査。その後に残す木と伐る木を選別して不要木を抜き伐りし、樹木が足りない部分には植栽、または棚積みによる天然更新を促した。これらの施業により高木性常緑広葉樹を主体とし、亜高木・中木・低木・下草と階層的、かつ多種多様な樹種にて構成される豊かな森林を目指した。



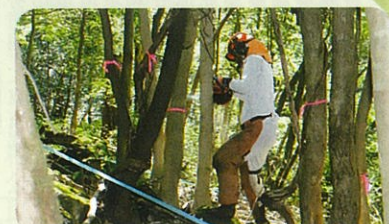
市町村担当者対象の施業説明会

### 本事業における課題と対策②

多くの現場で行う施業が、不要木を伐採して林床に光を入れ、将来有用となる樹木の生長を促したり、新たに植栽するための「抜き伐り」である。しかし前号で紹介した伐り過ぎの現場とは反対に、伐採の割合が少ないケースも多く見受けられた。特に抜き伐り後に植栽をおこなう場合には、十分な照度が必要となる。伐採の割合が少ないと、残存する樹木がすぐに枝葉を伸ばし林冠をうっ閉してしまい、植栽苗が十分に育たない。植栽する樹種が常緑樹の場合は3割、落葉樹は5割以上の空が見える程度を目安として抜き伐りを行う。また植栽をおこなわず抜き伐りをする場合も、切り株から多くの芽が萌芽し、将来的には同じ階層の樹種のみで林冠をうっ閉してしまう場合がある。多種多様な樹種で階層的な森林を目指すためにも、必要に応じて芽掻きをおこなう。



株立ちが密集し林床に光が当たらない現場



株立ちを整理し下層木の生長を促す

### 本事業の今後について

県内全ての市町村で実施する本事業も、ほとんどの市町村で植栽等の主たる施業が終了し、下刈り等の育樹、また状況に応じた補植や追加での抜き伐りなど、補完的な施業が中心となっている。施業地を目的に沿った「ふるさとの森」へと後押しすることが主体ではあるが、各市町村においては市民の方への周知がなされず、折角の事業の成果が一般に認知されていない。そこで県や市町村とともに積極的に本事業をPRし、地元の子供達への森林教育やハイキングなど、地域住民に親しまれる森としての活用を促していきたい。

令和4年度会員名簿

(九月三十日現在)

法人会員

Table listing members categorized by '法人会員' (Corporate Members) and '個人会員' (Individual Members). The table includes names, addresses, and organizational affiliations for numerous individuals and companies.





吾郷紘一(出雲市)  
 梶谷光弘(松江市)  
 榑崎正剛(福岡県)  
 松崎道子(出雲市)  
 松原廣美(出雲市)

**寄 附**

和田統彦(松江市)  
 和田秀穂(出雲市)  
 渡邊憲治(京都府)  
 渡部しずか(出雲市)  
 渡邊喬士(出雲市)  
 渡部輝之(出雲市)  
 渡部良治(出雲市)  
 渡部良平(松江市)  
 (個人会員計六一六名)

# あなたが支える「出雲」文化!

先人たちから受け継いだ美しい自然風土や歴史、伝統文化を現代に生かして地域の活性化に結び、それを子孫に橋渡しをする担い手になることを使命とします。

## 会員を募集しています!

### ◆入会について

会費は、年度制(4月~翌年3月)です。いつでも入会できます。

※「出雲」文化を愛する人は、どなたでも会員になれます。

(注)ここでいう「出雲」とは狭義の出雲ではなく、隠岐から石見までを含む幅広い地域を想定しています。

### ◆会員の種類・年会費

正会員(個人) 一口 2,000円 正会員(法人) 一口 20,000円 (何口でも結構です。)

### ◆会員の待遇

- 会員証をお送りします。
- 下記の協賛施設にて会員証を提示いただくと、優遇措置が受けられます。
  - ・出雲大社宝物殿(拝観料無料、翌年4月末まで有効です)
- 定期的に会報「財団いづも」をお送りします。

### ◆入会方法

- 1、会員申込資料を電話かファックス、葉書、メールにてご請求ください。または、直接いづも財団事務局までおいで下さっても結構です。
- 2、送付された入会申込書に必要事項をご記入のうえ、返信用封筒またはファックスにてお送りください。
- 3、下記口座のいずれかへ会費をお振込ください。

**【郵便局】**(現金振込みの場合は加算料金が  
かかります)

同封の郵便局払込票にてお振込ください。

郵便振替口座番号 01360-9-55417

口座名 「公益財団法人いづも財団」

(コウエキザイダンハウジン イヅモザイダン)

**【銀行】**(手数料はご負担願います)

山陰合同銀行 大社支店 普通 3628973

口座名 「公益財団法人いづも財団」

(コウエキザイダンハウジン イヅモザイダン)

### お問い合わせ

〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東283 大社國學館内 公益財団法人いづも財団事務局

電話 : 0853-31-4346 FAX : 0853-31-4348 E-mail : info@izumozaidan.or.jp